

【議会報告会】

質疑、意見はなかった。

【シティ・ミーティング】

《テーマ：シティプロモーションについて～四日市市の魅力再発見！》

グループAにおいて出された主な意見

①四日市市への愛着に関して

○市外によく出かけるが、都会でもなく、田舎でもなく中間的である本市がもっともよいところであり、住みやすいと感じる。

②四日市市のイメージ、魅力・アピールポイント等に関して

○過去に東京や大阪にいたこともあるが、四日市といえば公害のイメージで語られていた。そのような中、「四日市公害と環境未来館」が整備されたのは非常によいことであるが、四日市市が公害を克服し、環境が改善されたということをPRするにとどまっており、次に広がっていないように感じている。

○四日市市は東京のはとバスのような定期観光バスは走っていない。市内には有名企業が多くあるものの、個人で訪問・見学することは難しく、知名度も高まらないと感じるため、バスツアーに工場見学を組み込むなど、定期観光コースの設定が有効となるのではないかと考える。また、四日市市には道の駅がないことも課題であると感じている。

○四日市市への転入促進事業として、新たに本市へ転入した人を対象に、市内の観光施設3カ所への無料券が付いたこにゅうどうくんのお面うちわを配布するとのことである。これまでもふるさと納税への返礼として、四日市あすなろう鉄道の貸し切り列車の運行など、市内の施設等のPRに力を入れているが、大矢知素麺やお茶、なが餅などの物産面でのPRにも力を入れてほしい。

○生桑町に新たに整備された「おふろcafe湯守座」が県外の高校生にも人気があり、ぜひ訪れたいとの声も聞いている。多くの人々が四日市市へ来てもらうために、こうした声に注目することも必要ではないか。

○「湯守座」は、従来の「ユラックス」から経営者が交替し、内容もこれまでと全く異な

るものとなった。若い世代を呼び込める一方、市の老人クラブ連合会等との関係はなくなってしまった。菰野町の「アクアイグニス」も同様の例であり、全国的にも若い世代からの人気があるとのことであるが、地元らしさがなくなり、地域住民は逆に行かなくなったと聞き及んでいる。

- 四日市市において新しい図書館の整備について検討される中、「子育てするなら四日市」を掲げるのであれば、ありきたりの図書館ではなく、本市の公害のイメージを覆し、子供たちが喜ぶ素晴らしい図書館を整備してもらいたいと考える。平成29年度には新図書館についてのシンポジウムが開催されたところであるが、せっかく市民から意見を出しているにもかかわらず、当初の計画は進んでいないことは残念である。市民からの意見を聞いただけで終わらないよう、配慮してほしい。
- 四日市市の印象や魅力、住みたいかどうかなどは、世代等によって意見は異なると思う。各年代別や男女別で意向調査をすることが有効ではないか。

③四日市市に住むことに関して

- スポーツ施設など、本市の中心となる施設はほとんど沿岸部に整備されているが、近い将来の南海トラフ地震の発生が叫ばれる中、沿岸部に施設が集中しては危険である。危機管理の観点からも、山間部への施設整備をお願いしたい。また、津波等の危険を避けるために今後は山間部への移住を希望する人も増えると思うが、山間部は土地利用の制限が多く、友人・知人を迎えることは容易ではない。外に向けたPRもよいが、もう少し山間部に住みやすくなるよう基準の緩和を検討してほしい。
- 四日市大学の学生であるが、大学周辺には施設が少なく、買い物等に不便である。大学自体が移転すれば生活も便利になると感じる。
- 近頃、高齢者の自動車運転や免許返納が問題となっているが、平津新町など山間部は、車がなければ買い物等に不便な地域である。現在の住所に住み続けることのできない原因にもなりうるため、必要な公共交通手段の確保をお願いしたい。

④シティプロモーションの意味合いに関して

- 個人によってシティプロモーションとは何かという意識が様々であるように感じる。議会においても、大枠として、シティプロモーションとはいかなるものかを明らかにしておく必要があると考える。現在のシティプロモーション部には広報広聴部門もあるこ

とから、個人的には、市民がどのように行政にかかわり、それによってどのように行政が形作られるのかがシティプロモーションにおいても大きな意味を持つと考えている。

- 図書館を含めた中心市街地拠点施設の整備について、改めて市の方針の策定が進められているが、市の意思決定がなされた時点で、市民への説明を行い、意見を聴取する機会を設けてほしい。市民参画もシティプロモーションの重要な部分であると考えている。

グループBにおいて出された主な意見

①四日市市への愛着に関して

- 下野地区は高齢化も相当進んでいるが、地区の行事など、地域内の結びつき・絆が非常に強く、災害発生時もお互いに助け合える素地のある土地柄だと感じている。必要なインフラも揃っており、住民としては非常に愛着を持っていることから、これからも住み続けたいと思っているところであり、このような地域ごとの特色もぜひ力強くPRしてほしい。

②四日市市のイメージ、魅力・アピールポイント等に関して

- 四日市市のイメージを他市町の住民に問いかけたとき、「公害のまち」であるとの反応が返ってくることが多い。現在は、コンビナートに起因する公害もなく、逆に緑のある地域の方が多いくらいであるが、それを十分説明しきれないところに課題を感じる。
- 数十年前に四日市市に引っ越してきたが、当時はとても空気が悪かった。四日市市のよいところはたくさんあるが、大きな魅力と言えるものはないと感じる。産業、スポーツ、文化などの横のつながりがもう少し必要ではないかと考える。
- 留学生であり、以前は佐賀県鳥栖市に住んでいたが、大学進学に伴い四日市市へ引っ越した。年配の人から「なぜ公害のまちに行くのか」と心配され、引っ越すに当たっての不安はあった。現在は環境も改善していると聞いているが、コンビナートの煙突から煙が上がっているのを見たとき、本当に大丈夫かと疑問に思うことはある。また、年配の人ほど四日市市に公害のイメージを持っていると感じる。
- 地元住民であるが、まだ他市町では四日市市に公害のイメージを持っていることに驚いた。
- 兵庫県尼崎市の出身であり、学校での授業から四日市市に公害のイメージを持っていたが、実際に住んでみてそのような印象は変わった。大学の学生寮の近くは驚くほど田舎

であるが、中心部まで出れば尼崎市と大差はないと感じる。やはり遊ぶ場所がないのがネックである。

- 四日市市のPRポイントとしては、都会では見られない昆虫がいるなど、自然がたくさんあることであると考ええる。また、とんてきおいしい。
- 伊勢市から来ているが、伊勢市が静かで平和的であるのに対し、四日市市は商店街などにぎやかな場所が多い。
- 四日市市は工場夜景の聖地であり、四日市港ポートビルや四日市ドームの裏側、垂坂公園など、見る場所も多くある。しかし、四日市港ポートビルの開館時間が短い、垂坂公園までの動線が分かりにくいなど、夜景を見るための環境整備が不十分であるため、おもてなしの精神のもと、いつでも夜景が見られるよう、行政側の努力が求められる。フェイスブックやインスタグラムでの投稿が増えれば、どれだけでも観光客は来ると考える。
- 伊坂ダムサイクルパークのサイクリングコースは上り坂がきつく、1周がハードである。電動自転車があれば、家族全員で楽しめる施設となると考えるため、ぜひ早急に導入してほしい。

③四日市市に住むことに関して

- 名古屋や大阪に出やすく、交通面では便利であると感じる。しかし、四日市市には遊ぶのに適当な場所がなく、他市町から来た友人に紹介する際に困る。
- 買い物へ行くとすれば、名古屋市へ出かけることが多い。